

### 保険部



部長

#### 山口 雅彦

平素は、愛知県柔道整復会の療養費取扱い業務に、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。また、日頃より申請の適正化に努めていただき、ありがとうございます。

併給による返戻・不支給が増加傾向にありますので、併給についてお話しします。

併給とは、“同一部位に対する医科併用”の事です。

#### ・返戻の理由

医科のレセプトと突合の結果、柔道整復で施術を受けている部位と同一部位に対して現物給付されているので、療養費現金給付はやむを得ない事情で保険者がその必要性を認めた場合は、療養の給付に変えて療養費の支給をすることができることから、併給は認められない。

#### ・根拠

##### ○健康保険法第87条1項

「保険者は、療養の給付若しくは入院時食事療養費、入院時生活療養費若しくは保険外併用療養費の支給（以下この項において「療養の給付等」という）を行うことが困難であると認めるとき、又は被保険者が保険医療機関等以外の病院、診療所、薬局その他の者から診療、薬剤の支給若しくは手当を受けた場合において、保険者がやむを得ないものと認めるときは、療養の給付等に代えて、療養費を支給することができる」

##### ○内閣衆質 156第120号 平成15年9月2日

現に医師が治療を継続している疾患に対して、はり師、きゅう師、あん摩マツージ指圧師又は柔道整復師が施術を行ったとしても、療養費を支給することは認められていない。以上が併給を認めない根拠です。

#### ・概要

- ①現実には急性外傷が重篤で専門的な検査診断を医療機関に依頼し医師が診察と処置を行い、この程度であれば後は接骨院で受療して10日後に受診するよう指示があった場合
- ②骨折、不全骨折、脱臼の外傷で応急施術を施し医療機関へ受診を紹介し、同意（後療の依頼）が得られ柔道整復施術を行った場合
- ③患者さん自らの判断でかかりつけ医師または専門医療機関へ症状を訴え受診した場合（柔道整復師は通知されるまで状況を知りえない併給）

以上が、併給の概要です。

③以外の①②は、患者さんの健康と安全を保障する為の必要不可欠な行程ですが、現状は併給を理由に保険者は療養の給付を拒む傾向にあります。

健康保険法は、国民生活の安定と福祉の向上に寄与することを目的としています。今後は保険者に併給に対して理解していただけるよう詳細に説明したいと思っています。

### 学術部



部長

#### 筧 芳幸

新年明けましておめでとうございます。平素は学術部の運営にご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

学術部の活動としては現在、第20巻愛知県柔道整復学会誌の発刊（令和4年3月末）に向けて、令和3年度のアシ整学会にて発表された4演題について投稿原稿の編集作業を行っています。

また、本年度の各学術大会は

- ①第57回愛知県柔道整復学会・第96回会員研修会

令和4年7月3日（日）愛整会館3階講堂

②日本柔道整復師会第55回東海学術大会 岐阜大会

令和4年10月22・23日（土・日）

岐阜県 グランヴェール岐山

③第31回日本柔道整復接骨医学会 学術大会

令和4年11月中の土、日

東京都 帝京科学大学 千住キャンパス

以上が開催されます。

昨年度から日整主導にて始まりました「匠の技伝承」プロジェクト指導者養成講習会もすでに3回が下記日程にて行われ

第1回目 橈骨遠位端骨折

……令和3年9月26日

第2回目 肩甲上腕関節脱臼

……令和3年11月7日

第3回目 足周辺の骨折（外果骨折）

……令和3年11月28日

第4回目として令和4年2月20日（日）に行われる「顎関節脱臼」の講習会を最終として令和3年度の講座は終了いたします。この指導者養成講習会にて研修された柔整術の内容を各県の講習会において会員に伝える目的にて企画された事業です。本県学術部としては来る令和4年7月3日（日）開催の第96回会員研修会（第57回愛整学会後）にてプロジェクトの研修内容を会員へ伝えるべく、講習会を行う予定です。

コロナの状況次第ですが、なるべく対面での講習会にしたいと考えています。その際にはご参加の程、よろしくお願い申し上げます。

※令和4年度「匠の技伝承」プロジェクト指導者養成講習会の日程について

令和4年5月15日（日）、9月4日（日）、12月4日（日）、令和5年2月19日（日）

が日整にて報告されています。

が日整にて報告されています。

## 柔道部



部長

中村 太

平素より各種柔道大会、救護活動等にご協力賜り感謝申し上げます。

コロナ禍により中止となっていました「公益社団法人 愛知県柔道整復師会 少年少女柔道大会」を、関係者各位のご尽力により令和3年8月1日（日）に青山記念武道館にて開催することができました。役員、審判員、補助員として多くの会員皆様のご協力により負傷者もなく無事に大会を終えることができ、ありがとうございます。また、少年少女柔道大会にて選考された選手が、令和3年11月21日（日）講道館で開催された「文部科学大臣杯日整全国少年柔道大会」に出場し、3位入賞という立派な結果を残すこともできました。

令和4年度も各種柔道大会があり、多くの会員の方々のご協力を賜りたいと思いますので宜しくお願い申し上げます。

柔道部の公益事業として、もう一つ重要な事業は「柔道大会救護活動」です。愛知県柔道連盟から依頼された各種柔道大会に救護員として活動し、骨折、脱臼、打撲、捻挫、挫傷等の負傷者に対し整復・固定など応急処置を行います。柔道大会は、負傷者の無い大会が理想です。怪我人が一人もいない大会もありますが、反対に、救護員一人では間に合わないくらい負傷者が多い時もあります。

毎年、各支部長に救護員派遣依頼をいたしますので、一人でも多くの先生が救護員として柔道大会に参加し、活躍していただきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 介護部



部長  
倉橋 健司

介護部の活動は日本福祉大学の講師派遣事業に協力し、各自治体（市町村）より研修会開催にあたり本会へ講師派遣の依頼があれば、開催地域での会員へ講師としてお願いし、講習内容の作成と共に、毎年2月～3月に行われる機能訓練指導員実務研修会の企画・開催を実施することが主な仕事となっております。また、昨年はコロナウイルス関連の介護関係者として優先接種についての可能性を調べるといったこともありました。他に介護関係で会員から質問があれば、お答えできるよう回答を用意してあります。

今後の活動として柔整療養費が減少している中、介護予防事業による副収入を得られるようご助力できればと方策を探っております。

介護部はこれからも会員の皆様とともに勉強し、その上情報収集して会員の収益向上へお手伝いできればと思いい活動していきますので、よろしくお祈いします。

## 組織強化委員会



担当副会長  
小林 弘治

当委員会は早川 岩雄委員長の下、公益社団法人愛知県柔道整復師会の組織強化が目的であり、今年から女性会員3名を含む15名の委員で構成されております。

第1回組織強化委員会は2007年7月に開催され、「会員増加策を最優先に!!」をテーマに話し合われました。しかし残念ながら柔整業界が厳しい状況下で現在も会員減少傾向に歯止めがききません。

組織強化には会員増加が最も効果的と考え「そのためにはどのような方策を講ずればいいのか?」ということ

1. HPの有効活用

2. キャリエールの発刊

3. 既開業者（個人契約者）への業界説明会を開催するなど実施してまいりましたが、昨年・今年とコロナの影響で説明会は実施できず、個人契約者に（公社）愛知県柔道整復師会入会促進リーフレットの発送を行いました。

全国での開業者の減少に伴い全ての都道府県で公益社団法人の会員減少、柔道整復師の組織率低下が急速に進んでおり全国共通の問題です。

各県だけの対応では限界があり、公益社団法人日本柔道整復師会が危機感を持ってこの問題に取り組んでいただきたい。

47都道府県の頂点である日整も手をこまねいてばかりとは思いませんが、公益社団の魅力、公益社団の会員でなければというものを打ち出していただき、全国の社団の会員の増加につながればと思っております。

## 災害対策委員会



委員長  
石川 益郎

令和3年11月30日（火）、日本柔道整復師会と47都道府県柔道整復師会にて「災害時安否確認システム」についてWebにて会議を行った。その概要は「トヨクモ安否確認システム2」を使用し、地震であれば震度6以上、災害であれば特別警報以上の災害時にこのシステムが自動発動するというものである。発信先は、災害発生地域の支部長と災害対策担当理事、日整役員の携帯メールに届く。

安否確認メールの内容は

- ① 会員のケガの有無
- ② 家族のケガの有無
- ③ 開院することが可能か
- ④ ライフラインの状況など

返信後、応答メールは自動集計され安否確認集計結果内容が日整災害対策室にて協議される。その後、手動にて災害地域へ再度安否確認メールが発信され、返信集計後に速やかにJIMTEF（国際医療技術財団）・DJAT（災害派遣柔道整復チーム）とその情報が共有され今後の活動を指示するそうだ。現在は支部長までのシステムだが、今後は日整全会員を対象としているとの報告もあった。

この会議にて感じたことは、災害発生時に「正確にスピーディに情報共有」をする日整の本気度が伝わったことである。

## IT委員会



委員長  
松田 吉弘

IT委員会では、本会のホームページの管理をさせていただいております。インターネットの世界では、一昔前までは「ホームページさえあれば良い」という、そんな時代もありました。今では、ホームページを上手に運用することが求められる時代となりました。

また、ソーシャルメディア（SNS等）も普及しました。代表的なものとして、すでに多くの皆様が使用されているLINE、そしてTwitter、Facebook、Instagram、YouTube、TikTokなどがあります。今までは、テレビやラジオ、新聞や週刊誌がニュースソースでありましたが、コロナ禍により大きく変化しました。

我々、柔道整復師も変化が必要な時期になっております。もちろん、時代の変化に関係なく「変えてはならないもの」、「時代の変化に柔軟に対応しなければならないもの」に分けて考えなくてはなりません。また、ネットリテラシーも求められ、表現により注意を払わなければならない時代になりました。

本業である柔道整復術や療養費についての研鑽は言うまでもなく、インターネットの世界も研鑽すべき時代になり、柔整の発展のためにより良い対応を模索していきたいと思えます。

## 選挙管理委員会



委員長

山本 カヨ子

令和3年定時総会におきまして、理事・監事選挙に会員皆様のご協力をいただき、無事選挙を執行できました。選挙管理委員会を代表し感謝を申し上げます。

コロナ禍という特殊な状況の中、今まで以上に準備が必要になりました。今回から会場が名古屋観光ホテルになり、会場内での投票・開票を行い、また三密を避けるためには、ある程度の広さを確保することが必要でした。ホテル側と調整し、会員出入口は一ヶ所のみとし二ヶ所の出入口を封鎖し、柱で囲まれている場所を投票開票所にしました。

コロナ禍もあり、選挙公示の前に選挙管理委員会を開いたのみで、選挙管理委員10名中5名が初めての会員でした。補助員の会員も初めてで、事前に行程表、役割分担の資料をお渡ししましたが、説明不足で大変申し訳なく思っています。期日前の封筒にQRコードをつけて名簿の作成や開票時にPCで集計を行えるようになり、以前に比べ確実に時間が短縮できていますが、まだまだ人の力でなければならないことがあります。選挙管理委員、補助員の会員の方は大変貴重な存在です。今後も選挙管理委員会の仕事にご協力をお願いします。

最後に、会員の皆様へ  
理事、監事選挙はご自身の、これからの託す大事な選挙です。ご理解、ご協力を何卒よろしくお願い致します。

## 新入会員紹介

入会日	支部・氏名	施療所名・住所・電話番号・郵便番号
令和3年 6月23日	 熱田 つつみ こうじ <b>堤 康次</b>	<b>堤整骨院</b> 名古屋市港区稲永三丁目5番15号-2 TEL 052-665-6533 〒455-0842
令和3年 7月1日	 一宮 おぐら やすひろ <b>小倉 康弘</b>	<b>小倉接骨院</b> 犬山市犬山字高見町4-10 TEL 0568-62-7001 〒484-0081
令和3年 8月30日	 岡崎 たけうち ゆきお <b>武内 幸夫</b>	<b>たけ鍼灸接骨院</b> 豊田市吉原町平池161-2 TEL 0565-53-7611 〒473-0916
令和3年 10月1日	 大曾根 いのうえ ひさし <b>井上 久士</b>	<b>井上ほねつぎ</b> 名古屋市名東区つつじが丘414番地 TEL 052-777-2288 〒465-0017
令和3年 10月1日	 熱田 みずの まさひと <b>水野 雅仁</b>	<b>神宮前駅東口接骨院</b> 名古屋市熱田区三本松町17-1 アムバーハウス神宮1F TEL 052-872-2850 〒456-0032
令和3年 10月1日	 中村 つのだ みつひろ <b>角田 光宏</b>	<b>つのだ接骨院</b> 名古屋市西区花の木1丁目4-4 メゾン花の木 TEL 052-523-5001 〒451-0062
令和3年 10月1日	 刈谷 ふじい たかつな <b>藤井 崇綱</b>	<b>西尾みつな接骨院</b> 西尾市上町林20番1号 第5ランドプラザビル103号室 TEL 0563-57-1723 〒445-0894

※12月9日理事会承認まで

## 訃報 慎んでご冥福をお祈りいたします



令和3年6月16日ご逝去  
おぐら ゆうじ  
**小倉 勇治 先生**  
一宮支部・享年73



令和3年12月16日ご逝去  
さくま としはる  
**佐久間 稔晴 先生**  
半田支部・享年80

## 伊藤 勇造会員 瑞宝双光章 受章



鶴舞支部 伊藤 勇造会員が更生保護功勞により瑞宝双光章を授与されました。最近、BS放送で「生きて、ふたたび 保護司・深谷 善輔」が放送されており、「保護司」は注目されています。保護司について説明します。

保護司とは、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える民間のボランティアです。保護司法に基づき、法務大臣から委嘱された非常勤の国家公務員とされていますが、給与は支給されません。保護司は、民間人としての柔軟性と地域の実情に通じているという特性をいかし、保護観察官と協働して保護観察に当たるほか、犯罪や非行をした人が刑事施設や少年院から社会復帰を果たしたとき、スムーズに社会生活を営めるよう、釈放後の住居や就業先などの帰住環境の調整や相談を行っています。このような保護司は、全国に約4万7,000人います。

(法務省HP)

## 【伊藤会員からのコメント】

地域に貢献するということでは、ほねつぎも保護司も同じです。そして、健康で安定した職業の人がなるのが良いと思っています。保護司とは、町の安心・安全に協力する団体です。

保護司の身分は、非常勤の一般職の国家公務員とされていますが、給与は支給されません。具備条件として、社会的信望・熱意と時間的余裕・生活の安定・健康であること。柔道整復師にふさわしいと思いませんか。

私のように接骨院と保護司をやってみたいと思う会員があれば、ご連絡をください。



## 伊藤会員のプロフィール

平成3年 国家公務員 保護司 拝任  
 平成13年 愛知県柔道整復師会 理事就任  
 平成24年 愛知県柔道整復師会 理事退任  
 平成24年 (公社) 愛知県柔道整復師会 監事就任  
 平成26年 (公社) 愛知県柔道整復師会 監事退任  
 平成15年 天白保護区保護司会 会長就任  
 平成18年 愛知県保護司会連合会 常務理事  
 平成21年 名古屋市保護司会連合会 副会長  
 現在に至る

## 日本柔道整復接骨医学会奨励賞



第30回日本柔道整復接骨医学会学術大会（令和3年11月13・14日（土・日）開催）にて大曾根支部 中村 宜之会員が令和2年度日本柔道整復接骨医学会奨励賞の荣誉に輝き、表彰されました。

### <受賞者から喜びの声>

このような荣誉ある賞をいただきましたのは、共同研究者の皆様のご指導とご協力があったからに他なりません。私は研修時代から、たくさんの先輩方と出会い、知識・技術・研究・柔道整復・人となりについてたくさんご教授いただきました。

先輩方からいただいた言葉は、「世の中に科学性のある柔道整復を還元すること」そして「自分の後輩にバトンを渡して行って欲しいこと」でした。

今回、受賞の対象となりましたのは、「限局性圧痛」の変化についてでした。先人の教えがそこには詰まっており、それを頼りに骨折の施術を行ってまいりました。これを、研究を通して科学し、先人の教えが科学性をもった知識、技術となることで、柔道整復師はもとより世の中に貢献できると確信しております。私には先人からの教え、諸先輩方からご教授いただいた様々な知識・技術・やさしさ・厳しさ、それらを伝えていく責務もあると考えております。

柔道整復師に限らず、たくさんの方々に影響を与えられるよう私自身引き続き精進して参ります。

そして医学、柔道整復学に真摯に向き合って参りたいと思います。

## 第56回愛知県柔道整復学会・第94回会員研修会

7月4日（日）午前10時から正午まで、本会講堂にて第56回愛知県柔道整復学会・第94回会員研修会が開催され、会員174名（会場49名・Zoom 125名）が参加した。

藤川 和秀副会長の開会の辞に続き、森川伸治会長は挨拶にて、昨日梅雨前線が停滞し豪雨災害が起きたことに言及され、「岡崎城の石垣が崩壊し、静岡県熱海市では大きな土石流が発生し、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます」と弔意を示された後、昨年はコロナ禍で開催できなかったことに触れ、「今日は予定では35～6名という事でしたが、見てみるとそれ以上の皆様に会場にきてもらっている」「WEBでの聴講者が百数十名ということで今日は多くの方々にご参加いただきました」と謝意を述べ、愛知県柔道整復師会においてコロナワクチン接種を6月21日（月）から明日まで名古屋空港、6日（火）から岡崎の愛知医科大学のメディカルセンターで三河方面の先生方を中心に接種することを報告し「愛知県知事にご配慮をいただいた。早期接種ということで、患者さんに対して、また我々施術者も安心安全な気持ちで患者さんと対応していただくようお願いをしているところです」と述べた。

また、全国47都道府県の柔道整復師の療養費が平成23年をピークに丸10年下がり続けていることに言及し、「何とかしなければならぬ、厚生労働省等々とも話し合いをして近々柔道整復検討委員会が開催される予定である」「下がり続けた10年間をいかに食い止め、V字回復とはいかないまでも少しでも回復させないといけない」「食っていけないという柔道整復師の先生方が多々みえます、これ以上設備投資ができないと閉院をされる先生方もみえます」と柔整師の現状を憂え、「これを切り抜けるためにも、本日の愛整学会そして会員研修会を明日からの施術に役に立てていただいて、柔道整復師の資質向上と患者さんにいかに良質な施術を提供していただくかということで、どうか短い時間ですがしっかりと勉強していただいて、患者さんのためにご聴講いただきたいと思います」と締めた。

### 愛知県柔道整復学会

#### 1. 橈骨遠位端屈曲骨折の受傷機序の検討

青山 由裕会員（岡崎）

Smithは、橈骨遠位端屈曲型骨折（Smith骨折）について「非常にまれな障害であり、手の甲から転倒した結果として発生する」と報告した。橈骨遠位端伸展型骨折（Colles骨折）は、「手掌をついて受傷」、Smith骨折は、「手背をついて受傷」と一般的に言われてきた。しかし、後者については前者と同様の受傷機序もあることは周知の事実である。

サッカー中に前方へ転倒して受傷した左Smith骨折の症例を経験した。受傷時の動画が2方向あり、その動画を元に受傷機序について検討及び考察したので報告する。

Colles骨折と同じ「手掌をついて受傷」でSmith骨折を受傷することも十分あり得るので、安易に受傷機序のみで判断するのは危険である。

#### 2. 皮膚に対する軽擦法が筋力と可動域に与える影響

則竹 洋昭会員（一宮）

近年、静的ストレッチを行うと短期的に筋力低下を起こし、スポーツ前に行う準備運動としては向いていないという考えが出てきている。また皮膚への軽擦法を行うことが可動域改善に効果があるという発表を目にした。そこで一宮支部の学術部員の協力を得て、皮膚へ軽擦法を器具（ドルフィン）を用いて行い、筋力や可動域にどのような影響を与えるのか、握力およびSLRを検証した。

握力において、静的ストレッチでは握力低下がみられたが、軽擦法では握力低下は見られなかった、SLRにおいて、軽擦法で柔軟性の向上が認められた。

#### 3. 手関節固定装具に用いる固定材料と作成方法の紹介

山岸 裕幸会員（熱田）

手関節固定装具の固定材料には、既存のプラスチックシーネ、既存スプリント材などがある。その素材も多様である。そこで、当院及び熱田支部学術部で用いている固定装具の固定材料と制作方法を紹介する。

固定装具を固定材料【FOREX（3mm厚・

低発砲塩化ビニール樹脂板)、面ファスナー、伸縮ベルト、リング(鉄リングCチェーン)】を自作の採型具を用いて作成。

#### 4. 日整会員の現状に対するアンケート調査

大口 明良会員(大曾根)

柔道整復師を取り巻く環境は年々厳しくなり、不安を抱えながら日々の施術にあたっている柔道整復師が多いのが現状である。多数の有資格者・接骨院の乱立など業界を取り巻く環境の変化等が起きている。そこで日整会員に現状に対しての意識を明らかにするためアンケートを行った。

全国の(公社)日本柔道整復師会会員の内、1,000名を無作為に抽出し、質問形式(原則無記名)のアンケートを郵送し、返信用封筒をもって回収した。有効回答は1,000名中、378名無回答は622名であった。

- アンケート内容は、
- ・開業までの研修について
  - ・柔道整復師がWHOに登録されたことについて
  - ・EBMについて
  - ・IT利用について
  - ・介護保険事業参入について
- 小林 弘治副会長の閉会の辞で終了した。



#### 会員研修会

11時10分から第94回会員研修会が、「体幹部損傷に対する固定～固定法・固定具の紹介～」と題し開催された。

山北 陽一会員(中村)が、腰部キャスト固定を紹介した。

材料：梱包用ラップ、オルテックス、キャストライト(4号×2巻・3号×1巻)、テーピング、カシメ(頭径13mm×足長13mm)×4、角カン(幅50mm)、クッションシート(厚

さ3mm)、ストッキネット4号

キャストライトは上前腸骨棘から剣状突起の下2横指くらいまで1/2～1/3重ねながら巻き上げる。はじめは4号を用い、下縁部上縁部は3周巻き足りなければ3号で巻く、最後は補強する形で上から下へ巻いていく。

固まりきる前に、上縁部と下縁部は指で少し外側へ反らせ、背面の棘突起の形状をなぞるように擦ることでフィット感が増す。

その後椅子に座ってもらい、下縁部が股関節の前面にあたらないか確認し、当たるようなら当たらないようにキャストをカットする。

キャストは全面正中線でカットし、一旦外しあらかじめ用意しておいた型紙を用いて、固定用のマジックテープの固定位置をマークし、ドリルで穴をあけて、カシメで止める。

上縁部下縁部にテープを張り完成。このままでも使えるがストッキネット(長め)を付けたりする。

早川 信義会員(笠寺)が、厚紙副子と晒を使用した体幹固定を紹介した。

材料：晒、厚紙(縦40cm×横30cm、厚さ2mm)、綿花、伸縮包帯

晒は2重にして使うので体幹の3周分の長さに切る。両端を3等分になるよう裂き(ハサミで切れ込みを入れると簡単に裂ける)結べるようにする。

厚紙を半分に切り、腸骨稜に合わせて下部を半円状にカットし、四隅を丸くする。縦に2cm間隔で筋を切り、綿花をあて伸縮包帯で巻く。

厚紙を患部に合わせ左右または前後にあてて晒で巻き、裂いた部分で縛る。中央から縛り、外れにくくするため結び目は2重にする。

2mm厚の厚紙は、ホームセンターでは売られておらず、Amazonにて10枚1,678円で購入した。一人当たりの材料費は300円～400円程度で作成できる。

(広報部)

## 第30回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会 第10回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会



8月1日（日）午前9時半から午後2時まで、半田市青山記念武道館大道場にて、第30回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会・第10回公益社団法人愛知県柔道整復師会少年柔道形競技会が同日開催された。当初は6月20日（日）に開催予定であったが、コロナ禍に伴った緊急事態宣言発令により中止となり、その後関係者協議の結果、開催する運びとなった。

開催に際し森川大会会長は挨拶にて「本来であれば、多くの来賓の方々をお招きし、観覧席には皆さんのお父さんお母さんが応援にかけつけてくれるところですが、ご承知の通りコロナ禍により無観客とさせていただきます」と、参加した選手や監督に謝意を述べるとともに「何よりも選手の皆さんがいつものように練習できていたかどうかがとても心配です。日頃から地域の接骨院の先生方に教えていただいた技を思いっきり出していただき、悔いが残らないよう、そして怪我のないように自分の持てる力をフルに発揮してこの大会に挑んでいただきたい」と述べた。

伊藤 杏選手（大石）の選手宣誓の後、最初に形競技会が開始。県下8支部からの代表選手により「投の形」が競われた。緊迫した静寂の中、柔道着の擦れる音、摺り足の音、

そして受け身の音だけが道場に響く中、演武が進み、半田支部が優勝し9連覇を遂げた。

形競技会の表彰式が終了した11時20分より県下40の道場に通う、小学4年生から6年生までの男女合計139名がエントリー（コロナ禍により、人数の縮小を図り、各団体、各学年、男女1人まで。但し前回大会で3位までに入賞した道場は、入賞した学年のみ上限2名まで出場可）し、6会場で1試合ずつのトーナメント方式で試合が一斉に開始された。出場選手2人と、次の試合の選手のみ畳上に待機、他の選手は観覧席で待機と言うソーシャルディスタンスが取られ、試合の合間には試合上の畳の消毒と、徹底した感染予防対策が講じられ、日整大会出場選手の選考試合も含め、全ての試合が12時40分には終了した。

緊急性のあるような大きな怪我はなかったが、今回の救護ブースには超音波観察装置が持ち込まれ、肩鎖関節を負傷したと思われる4年生女子の負傷部の観察にも利用された。

今回は半田市での開催と言うことで、半田支部会員10人も補助員として参加していただき、役員、各部員、審判員と多くの会員の協力により、本大会も成功裏に終わった。

（広報部）

## 第30回日整全国少年柔道大会



今大会の開催は3年ぶりとなりました。コロナ禍で無観客ではありましたが、感染対策を徹底し、開催していただいたこと、関係者の皆さまには深く感謝致します。

今回、メンバーに選ばれた選手たちは、8月に行われた公益社団法人愛知県柔道整復師会少年少女柔道大会において、各学年で優勝した選手たちで構成された団体メンバーです。

選手たちは、3年ぶりの全国大会という舞台に、初戦は非常に緊張がみえたものの、その後2回戦、3回戦、準々決勝と勝ち進んでいくうちに、次第に選手たちの緊張もほぐれ、平常心で挑む事ができたように思います。

準決勝の相手は、今大会優勝した兵庫県でしたが、やはり強く、接戦の末惜しくも負けてしまいましたが、代表戦までもつれ込み、この日1番のチームワークを発揮しました。内容としてはとても良く、選手はとても頑張ってくれました。

コロナ禍で練習も満足にできない日が続き、大会もなくなってしまった中で、選手たちのモチベーションを保つことが大変だということ、私自身とても感じました。しかし、今大会を通して、選手たちは最後までよく頑張り、素晴らしい成績を残せたと思います。

コロナが終息し、来年以降もまた大会が開催されることを願うと共に、選手たちが良い成績を残せるように。

(監督 羽田野 剛)



## 東京2020オリンピック・パラリンピック

### 東京オリンピックレポート



半田支部  
山田 直樹

私は2020年東京オリンピックに、柔道のオフィシャルメディカルスタッフ（以下、OMSとする）として、2021年7月24日（土）から31日（土）まで参加した。今まで世界選手権レベルのメディカルサポートの経験はあったが、その活動内容の違いに驚いた。まず開催前にOMSの考え方や方針、緊急時の対

応や医師、理学療法士、看護師と連携する手順などをeラーニングで学習し、さらに日整から選ばれたOMS内でも心構えと規律を徹底して再確認した。そしてオリンピックという世界最大規模のスポーツイベントでの我々の行為は常に慎重な対応が必要で、活動の難しさを学んだ。

大会期間中は練習会場となる講道館と試合会場となる日本武道館の両方で活動した。講道館では各国の練習手順の違いと日本人コーチのいる国が多いことに驚いた。そして外国人選手が嘉納治五郎像の前で記念撮影をすることが多く見られ、ここが柔道の総本山、まさに聖地であることを実感した。

日本武道館では、本大会柔道競技アスリートメディカルスーパーバイザーである医師か

ら緊急時の役割分担、動線などご指導いただいた。頸椎損傷を想定したシミュレーションではスクープストレッチャーを使って繰り返し練習した。特に頭頸部を固定する役割は生命に関わる部分であり、頭部固定をするDrと連携してヘッドイモバイザーを装着する作業は何度も練習した。このように柔整が医療チームの一員として医師らと連携する機会はとても貴重であったが、同時に我々が今後意識して目を向けなければならないことだと感じた。

最後に、我々が他職種と連携することは柔整に対する理解と信頼が深まることにつながり、孤立しないために今後も積極的に行わなければならない活動であると切に感じた。このような機会を与えて下さいました、公益社団法人日本柔道整復師会へ深く御礼申し上げますと同時に、今後も医療チームの一員として活動できる機会を増やしていただくことをお願いし、私の活動報告とする。

活動にあたり常にイニシアティブを取って下さいました東京都柔道整復師会の先生方へ深謝いたします。

## 2020東京オリンピック柔道 大野選手に帯同して



半田支部  
加藤 修

令和3年（2021年）7月22日（木）から7月31日（土）まで大野 将平選手をリオオリンピック（2016年）代表決定戦の少し前から身体のケアをさせて頂いているご縁で東京オリンピックサポートメンバーとして帯同してきました（ボランティア）。

- ・22日（木） 宿舎のビジネスホテルへ移動し深夜サポートメンバー、大野選手と合流
- ・23日（金） 味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）にて全日本代表メンバ

ー及び監督コーチを含むスタッフと合流。男子、女子チーム共に調整練習（柔道場）練習中及び練習後ケア（選手数名、スタッフ含む）

- ・24日（土） 前日同様
  - ・25日（日） 午後から東京ドームホテルへ移動（個人戦出場選手は試合前日と当日宿泊）
  - ・26日（月） -73キロ級試合当日（日本武道館）  
サポートメンバーは会場隣り科学技術館内の全日本柔道連盟科学研究チームブース内にて待機し、そこでケアを行う。緊急事態発生時はセキュリティエリア出口公園内通路にて（屋外）ケア（実際に出動有り）
  - ・27日（火） 午前中にNTCへ移動、午後から団体戦に向けて調整練習  
練習中、練習後ケア
  - ・28日（水） 調整練習（柔道場）  
練習中、練習後ケア
  - ・29日（木） 前日同様
  - ・30日（金） 調整練習（柔道場）  
ケアの後選手は選手村へ移動
  - ・31日（土） 団体戦当日  
サポートチームは個人戦同様科学技術館にて待機、緊急事態にも備える（出動有り）
  - ・8月1日（日） 手続き、検査等終了の後サポートチーム解散帰宅
- 以上が全体の活動内容です。

もちろん全日程ホテルやNTC、柔道場、科学技術館等に於いてPCR検査、消毒、行動履歴書提出等の徹底したコロナ対策も実施され現場での緊張感に拍車をかけられました。

連日のメダルラッシュに沸いた今回の柔道チームのオリンピックでしたが、選手は元より裏でサポートするメンバーの方々の努力と御苦労は計り知れないものがありました。

その一助を担う事ができたという自負と共に柔道整復師の知識、技術を日々努力研鑽し何時でも活動できるようにしなければならぬとさらに心の帯を引き締め直しました。

最後に今回大変お世話になりました全日本柔道連盟、天理柔道会の方々、旭化成柔道部の皆様にご挨拶と感謝とお礼を述べさせていただきます。ありがとうございます。

## 2020Tokyoパラリンピック (パラ柔道) 参加報告



大曾根支部  
渡辺 正哉

(サンマルシェわたなべ整骨院、上武大学)

コロナ禍での開催だった東京2020パラリンピック大会（1964年東京パラリンピックは、世界で初めて全障害者を対象として開催された国際大会）のパラ柔道にボランティア（メディカルスタッフ）として参加してきました。メディアでボランティアが取り上げられることもありました。全くメディアに映らないボランティアがその何倍も働いていました。その中でも、大学（東海大、国士舘大、日体大）所属の柔道部員が会場の整備、清掃、誘導だけでなく、ドレスリハーサル（本番を想定したリハーサル）では、出場選手役として活動し、熱心に、しかも外国人ジャッジともフレンドリーに接しており好印象でした。

私は、日本武道館マット（畳）での重傷者の救護、中道場医務室への搬送、および、試合マットの医師の隣に控え、止血補助、テーピング処置を担当しました。目の前で競技は行われており、オンタイムで活動しなくてはならないため、息を抜くことのできない活動でした。もちろんテレビに映る機会もあるためテキパキと業務をこなさなくてはならないというプレッシャーも常にありました。会場



筆者  
日本武道館中道場医務室  
赤ビブス（医師）  
白ビブス（柔道整復師、PT、看護師）

内の写真はSNSへの投稿基準が厳しく管理されているので、あまり様子をアップすることができませんが、メディアに映ることのない仕事について、参加スタッフ、選手の許可も得られたのでご報告致します。

### メディカル・サービス活動

実際のシフト表と活動時間について次に示します。活動時間は、午前7時から午後9時15分（最終日は午後10時）となっており、また、セキュリティーチェック、PCR検査があるため、我々は、活動開始30分前には現場到着しなくてはならず、夜のシフトを終了し宿舎に戻ると22時過ぎになりました。シフトは、スタッフの2交代制で行うことになっていましたが、実際には、何人かの辞退者（1年延期になり都合がつかなくなった、家族に発熱者が出たなどという理由）が出たため、限られたスタッフでの活動を強いられ、私の場合は、3日間フルシフトで参加することになりました。

柔道整復師（ACA）と理学療法士（PT）は、マットA、B（会場ではマット1、マット2、とアナウンスされる）と呼ばれる試合会場内に待機し、マット担当医師からの救護要請が出た際に担架（スクープストレッチャー）を持って現場に駆けつけ、救護、搬送するという業務を担当しました。この役目は、単に安全に救護するだけでなく、スタッフで選手を取り囲み、テレビカメラ、あるいは、取材しようと殺到するメディアから選手を素早く目隠しすることが求められました。この点が、今回の国際大会であるパラリンピック大会と一般のスポーツ大会、柔道大会との違いだと感じさせられました。

救護活動は、試合時間（テレビ放映時間）の制限があるため、そのためのリハーサルは、幾度となく繰り返し行い（7/10会場リハーサル、8/26ドレスリハーサル、そして、8/27から8/29の試合会場でのテレビ放映前リハーサル）、本番に備えなくてはなりません。

### FOP (field of play)

本大会のメディカル・サービスとして招集されたのは、医師（国際スポーツ大会ドクタ

一、および、東京都医師会からの派遣ドクター)、看護師、理学療法士、柔道整復師でした。東京都柔道整復師会からは3名が派遣され、東京以外からは愛知県、岐阜県の2名でした。特に、東京都柔道整復師会の2名の先生は、オリンピック、パラリンピックの両方に携わり、メディカルスタッフの中でも中心的な役割を果たされていました。

メディカル活動として最も重要だったのは、FOPと呼ばれる活動でした。FOPでは、国際標準であるスクープストレッチャーを使用すること。そして、2分以内での活動が基本であること。そのための配置、役割確認を何度も行いシミュレーションを徹底し本番に備えることが求められました。これは、事前のeラーニング(コロナ禍の影響で対面での講習が中止されたため)で何度も行われ、Zoomを使用した事前ミーティングにおいても確認し、また事前リハーサル、当日リハーサルでも行い、その回数は50回以上にもなりました。次に、eラーニングの内容の一部を示します。

#### マットドクター

大会2日目の午前、マットドクター横に控え、試合中の怪我の対応をしました。

主な仕事は、医務室、および、救護班のメディカルスタッフへの試合状況の無線連絡であり、マットドクターへスタッフの状況を伝えるという役目でした。また、傷病者が出た場合、必要な医薬品をマットドクターに手渡し、その処置のアシスタントを行いました。最も多かったのは、止血処置と出血場所の消毒(拭き取り)作業でした。もちろんAEDも携行し、心停止の状況にも備えなくてはなりませんでした。

#### おわりに

直接、骨折や脱臼の処置をするという華々しい活動こそありませんでしたが、無事に東京2020パラリンピックが成功裏に終えたことそして、この大会に直接参加できたことに達成感を得ることができました。今回、派遣していただいた日本柔道整復師会、愛知県柔道整復師会に感謝を申し上げます。

最後に、福岡県糸島の瀬戸 勇次郎選手(個人的に縁故のある)の銅メダル獲得を賞賛したいと思います。

## オリンピックで学んだ今後への試み



豊橋支部  
井原 正晴

### <はじめに>

今回の活動を通して想う事は全てにおいて斬新であった事に尽きる。従来の救護活動、トレーナー活動と比べ大きく明確な相違点があった。従来の活動であれば詳細に結果発表する所なれど、今回の活動報告はあえて、報告形式を変える事が最もわかりやすいと考え今回の報告とする。

### <活動結果>

#### ●具体的な活動がない

医師が事故や怪我の際に診察する。その指示で具体的な処置をする部隊がPT、それをサポートするのが私達。ところが、そのサポートとは何かと思えば怪我人が出た時の救急搬送であった。今回のミッションではスクープストレッチャーを使用した。私の当番の日は何も問題なく出場機会はなかったが、別の日に1回あったようだ。

#### ●情報による事前学習の徹底

オリンピックが始まる前からZoomによる事前学習(最後の回を含めて5回実施)。オリンピックが始まってからはグループラインによって毎日2会場の結果報告や翌日への引継ぎが上手くできた。それによって準備等上手くいったと思う。

#### ●感染症対策で会場を安全な環境とすること

次亜塩素酸を床、フロア、畳の上へ噴霧することと、窓は全開にして風向きも一定にするため、扇風機もフル活用して完全な形での換気を目指し実行した。

**●活動日数**

会場別研修、ドレスリハーサル含め私自身は5日間の活動であった。こういった活動で2日間の時間をかけたことも普段との相違点であった。

**<特記事項>**

試合中や練習中の咄嗟の怪我が起きた場合の対処は？という点について。会場奥の医務室にドクターが控えていて、簡単な応急処置が施せるが、それ以上の治療を要する場合はポリクリニック。救急な場合は提携している日本大学医学部病院への搬送が計画されていた。

**<今後の課題>**

日整から選抜いただき今回の経験を得た。活動を通し感じた事は1点のみ。我々には我々オリジナルな職域がある。今回の活動は正直、それが全く活かされていない。担架やストレッチャーが当たり前で自在に扱える前提で我々の利点を医科学委員のドクターに認めていただくために、今後の1つ1つの活動がカギになる。要は医科学委員の先生に認められて初めて我々もPTと同じく医師の診断のもと、治療を施せるという事であろう。